

八幡製錬所の罷業は自然諸事となつてゐる。この間の材料供給手後れとなるやさん、わたしは

木造家屋文庫

罷業沈靜の裏面に  
かくじうめい

# 一角同盟の沿跡

卷之三

## 初志の貫徹を期する

八時、氣氛月の同品「」をより  
全く平靜に歸して工場内の各煙  
突からも、昔日の如く黒煙漂々と  
立ち昇つて居るが、表面の暗流は  
未だ去らず、顧問顧の下の機械工場  
は、依然として、煙突と煙柱で三

監察署へ投書

## 罷業の怪聞

# 機事弓場

上をな作つて置く。數年後即ち通商の實現した時代、諺士として出るところが出來、殊に一月二千圓からの貿易が禁る所以故毫も無理の要求

をして會員に労友會の徳を謳は  
めんとしたのと他の一は労友會

副事業として喫病院がして居る  
が之は行々製鐵所病院に對抗する  
政策で之に依りて得た金で種々運  
動に使用する考へである此の主謀

二四